東洋大学図書館ニュース

ΚΟΣΜΟΣ

Vol. 8, No. 3 (No.24) 1974. 2. 20

ぶらざで　りぶろ　3
東洋大学図書館業務報告　4〜7
投書箱から　9
新規購入雑誌リスト　10

書物にむかう心

大　島　建　彦

多くの土地の民俗をたずねまわるうちに，しばしば村里の「学者」とか「先生」とかよばれる人々にめぐりあった。たとえば，四国のある山村の「学者」は，ごく古めかしい一軒家に，唖の娘さんと二人でくらしていた。また，奥羽のある海村の「先生」は，ほんのまにあわせの棟割長屋に，家族の人々から離れてすごしていた。そのような「学者」や「先生」は，正規の学校でまなんだ方ばかりではなかった。むしろ，本がすきでたまらず，手あたりしだいに読みあさり，何でもよく知っているというので，まわりの人々からうやまわれる方が多かったようである。じかに村人の生活にふれたい私どもにとって，そのような「学者」の解説をまじえたことばは，ただありがたいとばかりはいいきれない。しかしながら，それほどめぐまれない土地で，あるかぎりの本を読みかえして，すっかりこなしきっているのには，いつでも感心させられるのである。そのようなつつましい気持で，文字にかかれたものをうけいれようとするのは，もう忘れられかけた日本人の生き方でもあった。

ところで，まずしい調査の体験をかえりみても，はじめのころは，めったに見られない文献にむかうと，自分の手で丹念にうつそうとしたものである。いつのころか，もちなれない道具の一式で，そのままフィルムにおさめるようになった。このころでは，できることならば，役場の方にでも頼んで，そっくりコピーしていただいてすませている。もちろん，技術の開発にしても，資料の集積にしても，まことによろこばしいことであり，おおいに心がけるべきことであるが，それだけでは何か足りないように思われる。すくなくとも，ある時期とくらべると，複写などの技術は進んで，文献の分量もふえてきたが，はたして手もちの資料をいかしきっているかと，おりおりはわが身の上をかえりみるのである。

（図書館長）

授業・個人研究との関連で
より多くのご利用を

——視聴覚室を半年間運営して——

1　利用状況

昨年，7月に開室した視聴覚室は，試行錯誤の中で，全館員はいうまでもなく，関係部課をはじめ，この方面にくわしい学生の方々も含め，多くの人達の協力を得て，徐々に，軌道にのりはじめました。

詳細なデータは省きますが，レコード・コンサートなど，昼休み時間の催しものには，最大利用者数として，25,6名(座席数は30席)，ヘッドホン使用によるリスニング（午後2～4時）では，一日平均12,3名（座席数20席）という状況です。この数値は，一見したとき「ずいぶん利用者が少ないんだなあ」というのが，いつわらざる実感ではないでしょうか。しかし，担当人員やそれにかかわる開室時間などを考えていただけば，納得のいくことと思います。特に，後者のリスニングの時間は，利用できる時間が短いこともあって，資料の請求が受付開始時に集中する上，各デッキがフル回転している場合には，まちきれなくて利用をあきらめる人がいる程で，係はうれしい悲鳴をあげています。

2　利用方法の現実と，視聴覚室運営上の方向

視聴覚室の運営上，図書館側のいたらない点—例えば開室時間や資料数，技術面など—は，おおよそ掌握しており，改善に努めています。ここでは，それらの利用者側の要望を一応除外して，係が，利用者の皆さんに望んでいることについて一般的なことでしかも特に強調したい点に限ってふれてみたいと思います。それは，視聴覚室への認識度（存在自体よりむしろ存在意義）と利用のされ方において，利用者（今後，利用していただきたい人も含めて）と係が志向していることの間に，若干のズレがあるということです。これについては，いうまでもなく，図書館側のP・Rが不足していることや，一般的に，当室のような機能を持った施設の歴史が新しいために生じているのかもしれません。また，たとえそれをふまえたとしても，係が望む方向へ，利用者を引っぱっていこうとか，利用のしかたが気にいらないから教えてやろうなどという気持で運営すべきではありませんし，ここでも，そのつもりで述べるわけではないので，誤解のないように読みとっていただきたいのです。

大学教育の場合，例えば，社会学の理論を音声や映像に表現するのが難しいことにもみられるように，他の教育分野（初等教育や社会教育など）に比べて，視聴覚教育の方法を導入しにくいということがいえます。現在の東洋大学の授業や個人研究の中においても，例外ではなく，語学や美術関係の他は，フィールド・ワークにおいて，録音テープを使うといったたぐいにしか，視聴覚関係の機器・資料とのかかわりは，見い出せていないのではないかと推測します。

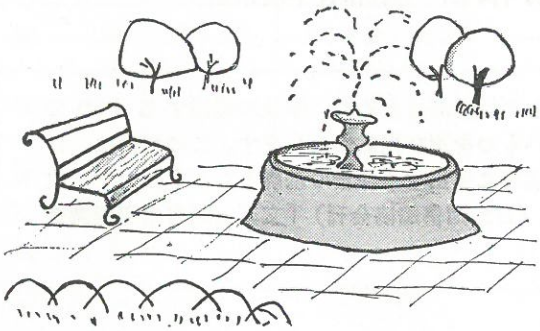
おそらく，そういう事情を反映していると思われますが，約半年間の経験にもとずいていえることとして，「ヒマができたので，レコードでもきこうかな」とか，趣味のためとか音楽関係サークルに属している人が「腕をみがく」ためにとかいったような形の利用方法が一般的です。視聴覚室もまた「図書館の一機能である」ことからいえば，それらに対して，軽べつしたり，拒否反応を起してはなりません。しかし，当室は，「音楽系コースを含まない総合大学」の図書館の一機能であり，予算規模は限定されていることを，同時にあわせ考えるならば，果して，それでいいのかなという疑問を持たざるを得ません。

3　教育・研究活動との関連における利用方法

これまで述べてきたことについて，具体的な形で，係が「指導」するのはおこがましいことですし，係自身も暗中模索の状態ですからこれまで，一般的に行なわれていた利用方法に加えて，これからは，すべての大学構成員のみなさんが，みなさん自身とかかわりのある教育研究活動を視聴覚関係機器及び資料と，いかに結びつけるかについて，創意工夫しそれにもとずいて大いに利用していただきたいというお願いをこめて，この一文を結ぶことにします（係の具体的な腹案は参考までにいずれ別の形でお伝えしてもいいと思っていますが)。

（視聴覚室　伊藤）

ぷらざ で りぶろ



小野　三嗣著

125歳への挑戦

（講談社）整理中

高度化し多様化する今日の日本の社会が，石油不足という一つの出来事によって根底から揺さぶりをかけられています。社会生活の不安と焦燥にかられ，パニック状態が引起され一億総ストレスだと騒がれている現実の中で，現代生活はますます運動不足にし，それが健康を損う原因となっている。現代生活で健康を維持するためには最も運動が必要であるかは，無知のことだと思います。

二十才前後の学生でさえが，「この頃疲れてねー，運動不足かなー」という言葉を，日常茶飯のごとく使っている。それに対応することも知っていて決って「マラソンでもやればいいやー」という。〝走る〟運動としては手っ取早いかも知れないが，決断力と忍耐力を必要とし継続的に実行することは難かしい。では，実際身体を動かそうとするならどうしたらいいのだろう……。体操でもやるかといざ実行しようとすると，小，中，高時代，体育授業の始めに準備運動として行ってきたラジオ体操ぐらいしか，浮かばないのではないでしょうか。

私達の日常生活でいくらでも運動はできるのです。ただどのようにして，どのくらい行えば健康を維持し，さらに，体力をつけることができるか見当がつかないだけではないかと思われます。

さあ！〝ながら〟体操，小野喬，清子著。体力の診断とトレーニング，石田俊丸著。スポーツの効用，黒田善雄著，新しい体力遊び 100，三宅邦夫著。などの本から一冊位，目の届くところに置き一日に一度は本を広げその箇所に記載されている項目を実施してみては如何でしょうか。

人間の身体の細胞は，ふつう40日とか60日とかで入れかわるそうですが，脳細胞だけは絶対に入れかわらない。その脳細胞の生存年数は，脳生理学者の研究によると，平均値で125年くらいになるということです。だから，脳細胞が生きつづける限界が人間の寿命とみることができます。これは減るばかりで増えることがないのです。つまり，人間は誰でも「125」の持ち点をもっているが，ある人は運動不足で，ある人は病気や酒，タバコの飲みすぎなどで一年減らされ，二年減らされ，三年減らされ，その減がつぎつぎに加算され，最終的には持ち点ゼロ（死）になるのです。という考え方で寿命減点法という発想を対話形式で，人間の健康と長寿には，何が不必要で，何が必要であるかを説いています。

減点のない生活を創造する意欲をかきたてる手がかりになるためにも，持ち点「125」の人生に挑戦してみて下さい。

皆さんの持ち点は「……」

（工学部教養課程講師　櫂田清）

自動複写機設置について

図書館では，複写利用の増大にともない11月中旬に，セルフ・サービスによる自動複写機（U・131×800）が2階カウンター前に設置され1月下旬までに12,000件の利用がありました。この複写機が設置されたことによって，従来の複写サービスと違いカウンターでの手続をすることもなく簡単に複写することが出来る様になり利用者が一層増大した様に思われます。しかし一部学生において利用細則を守らず，図書館資料以外の物を複写していることは非常に残念ですが，これからも正しい方法により自動複写機の利用を行なって下さい。（利用方法は複写機の前に掲示してあります）

（閲　覧　係）

東洋大学図書館業務報告（昭和47年度統計）

図書館業務報告は，毎年その年度の業務概略を諸統計にまとめて，学長に提出するものです。今回は47年度報告の内，利用者に関係の深いものを選び掲載いたします。この報告は，日本図書館協会，日本私立大学図書館協会，文部省等に提出する報告の基礎となるものです。他大学との比較を望まれる方は，「日本の図書館」（日本図書館協会刊）「文部省図書館実態調査報告」（文部省刊）をご覧下さい。

(1) 図書館業務報告書（白山本館）

Ⅰ 図書館予算及び決算

項目	予算	決算
図書費	48,000,000円	63,648,899円
事務用図書費	50,000〃	50,745〃
会議費	120,000〃	89,383〃
委託報酬費	7,060,000〃	1,874,475〃
雑費	50,000〃	26,233〃
印刷製本費	2,400,000〃	2,400,000〃
賃借費	210,000〃	178,400〃
合計	57,890,000〃	68,268,135〃

注：図書費頭初予算に対し，図書費5,000,000円及び助成金10,650,000円の補正あり

Ⅱ—(A) 図書資料受入と整理

	年間受入冊数（AV資料も含む）	年間整理冊数		
		図書	AV資料	合計
和書	9,417	7,533	202	7,735
洋書	5,968	5,196	135	5,331
合計	15,385	12,729	337	13,066

Ⅱ—(B) 部門別年間整理冊数

類別	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	工学	産業	芸術	語学	文学
冊数	1,484	1,249	1,039	4,915	480	283	625	304	374	1,906

Ⅱ—(C) 蔵書冊数（昭和48年３月現在）

和　　書	168,390	ＡＶ資料を含む
洋　　書	76,386	〃
合　　計	244,776	〃

Ⅱ—(D) 雑誌・新聞年間所蔵数

	雑　誌（種）		新　聞（種）	
購　　入	和	392	和	12
	洋	457	洋	18
寄　　贈	和	1,313	和	18
	洋	50	洋	0
合　　計		2,212		48

Ⅱ—(E) 蔵　書　構　成

類　別		総　記	哲　学	歴　史	社会科学	自然科学	工　学	産　業	芸　術	語　学	文　学
冊	和	20,036	19,835	19,927	(202) 28,661	5,233	4,542	5,212	3,034	4,057	14,113
数	洋	2,760	6,626	3,667	(135) 24,943	2,494	2,718	3,028	511	2,317	7,958

注：昭和46年度蔵書構成に昭和47年度整理冊数を加えた
　　（　）内は，マイクロフィルム，リール数
　　未分類図書は上記冊数に加えられていない

Ⅲ—(A) 館内閲覧統計

種別／月	閉　架　図　書		開　架　図　書		合　　計	
	冊　数	利用者数	冊　数	利用者数	冊　数	利用者数
4	269	188	714	508	983	696
5	712	398	1,332	903	2,044	1,301
6	865	631	1,913	1,297	2,778	1,928
7	588	299	1,142	726	1,730	1,025
8						
9	770	431	1,449	979	2,219	1,410
10	1,351	769	2,669	1,757	4,020	2,526
11	1,233	638	1,843	1,173	3,076	1,811
12	837	432	1,310	872	2,147	1,304
1	876	523	2,625	1,653	3,501	2,176
2	ロックアウトのため閉館					
3						
年間合計	7,501	4,309	14,997	9,868	22,498	14,177

注：８月の統計は事故により不明
　　２月・３月は学内ロックアウトのため閉館

Ⅲ—(B) 館外貸出統計

種別／月別	閉架図書		開架図書（一般）		指定書		合計	
	冊数	利用者数	冊数	利用者数	冊数	利用者数	冊数	利用者数
4	351	253	2,285	1,697	67	64	2,703	2,014
5	786	585	3,885	2,952	143	138	4,814	3,675
6	1,079	803	4,338	3,534	150	137	5,567	4,474
7	983	589	3,421	2,130	74	67	4,478	2,786
8	290	166	606	372	35	30	931	578
9	872	661	2,814	2,222	252	225	3,938	3,108
10	1,538	1,168	5,116	3,974	430	367	7,084	5,509
11	1,405	950	4,352	3,365	218	199	5,975	4,514
12	800	552	2,854	2,163	258	225	3,912	2,940
1	636	494	3,173	2,363	414	375	4,223	3,232
2	122	54					122	54
3	141	86					141	86
合計	9,003	6,361	32,844	24,772	2,041	1,827	43,888	32,960

注：未整本雑誌（哲学堂文庫，その他）を含む
教職員，校友，その他の貸出しを含む
閉架図書貸出しの中に教職員開架図書貸出しを含む

Ⅲ—(C) 参考業務統計

質問作数		1,633	利用者数		1,388
内容	書誌作成	1	内容	学生	1,271
	文献調査	459		教員	36
	文献所在調査	283		職員	55
	事実調査	724		学外者	26
	書誌的事項	166			

Ⅲ—(D) ゼロックス利用統計

	件数	枚数
4	138	5,052
5	226	5,339
6	323	6,782
7	206	4,504
8	99	1,357
9	205	5,007
10	326	10,136
11	305	8,840
12	222	6,381
1	265	8,279
2	34	3,219
3	92	4,875
合計	2,441	69,771

注：47年9月以降1枚20円

(2) 業務報告書（工学部分館）

Ⅰ 会 計 報 告

(A) 昭和47年度図書費予算　12,000,000円
〃　補正予算（応化より）　300,000〃
〃　図書費支出　12,568,809〃　(—268,809)

(B) 図書関係支出総額

	和　書	洋　書	雑 誌 等	合　計
図　書　費	1,818,177円	3,405,385円	7,345,247円	12,568,809円
実験実習費より	1,428,679〃	3,034,763〃	414,580〃	4,878,022〃
電算室より	139,701〃	306,293〃	9,590〃	455,584〃
				17,902,415円

(C) 雑誌製本費

和 雑 誌	292冊	176,800円
洋 雑 誌	1,094冊	880,300円
合　計	1,386冊	1,057,100円

Ⅰ—(A) 今期購入図書冊数

	和　書	洋　書
図　書　費	963冊	242冊
実験実習費	548	403
電算室費	98	58
合　計	1,609	703

Ⅱ—(B) 受入雑誌タイトル数

	和雑誌	洋雑誌
図　書　費	229	274
実験実習費	3	18
寄　贈	261	0
合　計	493	292

Ⅱ—(C) 図書原簿受入冊数

	和　書	洋　書	
購　入	1,631	639	2,270
寄　贈	711	22	733
帳　外	127	20	147
製本雑誌	292	1,094	1,386
合　計	2,761	1,775	4,536

Ⅱ—(D) 蔵書冊数

	和　書	洋　書	
原簿上の蔵書数	29,689	21,308	50,997
白山原簿	5,969	1,156	7,125
総蔵書数	35,658	22,464	58,122

Ⅲ—(A) 貸出冊数集計

	4　月	5	6	7	8	9	10	11	12	48年1月	2	3	計
学　生	723	1,571	2,066	1,495	69	1,061	1,495	1,445	1,539	1,213	785	30	13,492
教職員	53	279	188	90	7	79	102	247	148	143	69	65	1,470
											合　計		14,962

Ⅲ—(B) 学科別学生貸出冊数

機　械	電　気	応　化	土　木	建　築	大学院	白　山	合　計
3,297	4,460	2,373	1,934	1,013	392	23	13,492

参考図書の解題

——政治学に関するもの——

① 政治学事典　平凡社

国民の政治的教養及び政治的啓蒙に資することが本書の目的であり，そのためイデオロギー的にかたよった色彩を受けないように工夫されている。又本書は一巻の政治学概論としても十分役立つように配慮されている点も見逃せない。内容については，小項目主義と大項目主義が併用され，項目間の関連については矢印と星印で示されているほか，研究の便をはかるために参考文献や主著が項末に付されている。　(310.3：S)

② 索引政治経済大年表　4冊東洋経済新報社上巻（年表編・索引編），下巻（年表編・索引編）全4冊からなる本書は1943年9月刊行の「索引政治経済大年表」（年表篇・索引篇　全2巻）の改訂版として拡大発展の形で刊行されたものである。上巻は1840年から1945年8月15日までが収録され，下巻は1945年8月16日から1965年12月31日までが収録されている。年表編においては政治・経済・会社・世界の4項目にわかれ，政治については国内の政治及び外交関係を中心に社会・労働に関する事項も便宜的に含まれている。

経済については国内の経済だけでなく日本と諸外国の一般経済問題が取り上げられ，会社については，上場会社が中心であるが非上場会社であっても指導的立場にあるものは採用されている。

世界については，主要な外国の政治・経済などの出来事が収録されているが，特にアジア諸国の動きに重点がおかれている。　(310.3：S—2)

——工学部関係——

日中両国の国交の正常化に伴い図書館にも四冊の新しい中国語関係の参考図書が入ってきた。今回はそれらを簡単に紹介することにした。

① 日中機械電気工業辞典　向陽社

94,000余りの用語の収録からなる中辞典で中国語索引も完備して十分なスペースを取っている。日本語のかな文字によって配列され漢字と外来語の原文を表記してある。この点から見ると利用者の事を考えた親切な辞典である。しかし，中国語の発音表示がなされてない点など多少の不便さもある。今まで日中の機械電気の工業辞典類はなかったので利用価値の高いものであろう。

(503.4：N—2)

② 日中英工業用語辞典　日本工業新聞社

工業技術の各分野より約1万1,000語の用語を収録した。本の構成としては，本文，索引（中国語索引・英語索引），資料編とから成る。末尾の資料編には「日中常用漢字対照表」「発音参考表」「度量衡換算表」とその他，可能な限りの参考文献があげられている点も研究者には見のがせない所である。又，この本の親切な所は，中国語に発音表示がついている点である。(503.4：SS)

③ 現代中日辞典　光生館

親文字の数をふやし初版と合わせて1万字とした。特に注目されるところは語彙の豊富さである。方言語彙，常用語など初版と合わせても6万語収録されている。又付録も合わせて収録漢字はすべて検字表に排列。「日中同義複合語表」によって日本漢字音からも容易に検索できるという利点の多い辞典だ。　(820.3：KJ)

④ 現代日中辞典　光生館

日本語から中国語への辞典はついぞ発行されぬままに今日まで来ている。その意味においては待望のものと言えよう。この辞典は徹底した例文主義をとり，生きた文脈をふまえたうえで，最もそれに近い中国語の言いまわしを選んで対応させようとするもの。文字の小さいのとローマ字表記がないのが気になるがその他の点で新しい感じの辞典と言えよう。　(820.3：KJ—2)

～～～～～～～～～～～～～～～

投書箱から

感じた点について

社会学部応社　堀丈夫

館員のカウンター業務について，小生は不快な思いが残る。それはつぎのような状況下においてである。小生，開架図書を館内閲覧したく，カウンターの係へ持参した。ところが係氏は，開架か閉架かと尋ねた。小生，学生であり，閉架書庫には入庫すべもなく，開架であると告げたところ，係氏曰く，どちらか不明であるから，と。そして舌打ちを行った。この状況から察するに，係氏は

初新者であろうと思われる。開架か閉架の見分けも，未だ判然とせぬようである。それだからかもしれないが，舌打ちというのはどうもいただけない。もちろん利用者が神さまというわけではないが，図書館業務のカウンター係は，まさしくサービス業務である。そして図書館の顔ということもできる。そこにおいて，この事件に出合ったことは残念でならない。

本図書館が名実共に充実に向い，図書館ニュースにもあったように，指おりの図書館と目されることを希む。(11月29日)

（係から） 投書者が，本館利用中に，不快な思いをされたことは，閲覧の係として大変残念であり，申し訳けなく思っています。なぜこのような事故（開架図書か閉架図書か尋ねられたこと，係が舌打ちしたことなど）が生じたかを考える前に，本図書館のカウンターにおける館内貸出し手続きについて，簡単に説明させてもらいます。

開架図書の館内貸出しの場合，利用者は自由に，自分の希望する図書を書架から選び出し，カウンターの係に学生証といっしょに提示します。係は提示された学生証と交換に，閲覧券を貸し出す図書に添えて，利用者に渡します。これで貸出し手続きは完了です。

閉架図書の場合は，利用者は希望する図書を，まず「図書請求票」に記入し，それをカウンターの係に提示します。係はその請求された図書を閉架書庫に入って，探し出してきます。そして係はそのまま請求のあった利用者に渡します。その手続きは開架図書の貸出しと同じです。

以上は，あくまで館内貸出しの場合で，館外貸出しの場合は，いま少し手続きが複雑になることはすでにご承知のことと思います。

さて，以上のようにみてきますと，投書者の主張は正しく，私ども係の不注意がこの事故を招いたということになります。舌打ちなどもってのほか，深くお詫びいたします。と同時に今後はこのようなことのないよう，係一同反省いたしております。いつものように試験時期になりますと，カウンターがひどく混雑した状態になり，閲覧の係が総出で当っても，サービスしきれない時間帯があります。このような状態の折には，投書者のような不快な思いをされる利用者もあるかと思いますが，われわれの能力を超えた側面もあることを，ご理解願って，カウンターの業務がスムーズに流れるよう，利用者の方でもご協力下さるようお願いします。

今回のこのような投書も，このご協力の一端と受けとめています。

また，短大の女子学生の方からも，図書館の掲示板について，「期限切れのものが掲出されており，大変だらしなく見える」との注意を受けました。この点についても反省いたしました。

教職員図書館外貸出し手続きの一部変更について

Ⅰ　教職員館外帯出ノートの発行について

教職員の皆様の図書，資料の館外帯出にあたっては「教職員館外帯出ノート」を発行することになりました。つきましては，図書・資料の館外帯出をご希望の際は，帯出ノートの交付を受けて下さい。このノートは，図書資料の帯出手続きの際は，必ず携帯し，必要事項をご記入の上係員にご提示下さい。

Ⅱ　貸出方法について

イ）図書・資料の貸出しは，冊数30冊，期間3カ月といたします。（和漢装幀図書は1帙をもって1冊とします。）
新着雑誌を除く未整本雑誌は，2種，3冊，2週間までとします。

ロ）帯出図書資料の期間更新は，予約者があった場合を除き1回とします。ただし製本，未製本雑誌，開架図書は除きます。

ハ）帯出中の図書　資料は，他に転貸しないで下さい。万一図書，資料を紛失又は汚損，破損した場合は，現物又は現価をもって弁償していただきます。

ニ）代理人による館外帯出については，従来通り委任状を必要とします。

ホ）転勤，転職停年退職などによって，資格を失われた時は，直ちに帯出中の図書・資料と共に帯出ノートを発行者に返付して下さい。

来年度4月から実施させていただきたいと思いますので，ご協力下さいますようお願い申し上げます。

昭和49年度新規受入雑誌（和雑誌）

（誌　　名）	
商業界	月刊
モンキー	季刊
学校図書館	月刊
学校図書館	旬刊
現代のエスプリ	月刊
現象学研究	不定
季刊現代史	季刊
毛沢東思想	月刊
人物評論	月刊
文芸展望	季刊
基礎フランス語	月刊
宣伝会議	月刊
計量国語学	季刊
不動産鑑定	月刊
月刊エコノミスト	月刊
アトリエ	月刊
万葉	季刊
美学	季刊
季刊芸術	季刊
すばる	季刊
ユリイカ	月刊
文研年報	月刊
言語	月刊
ユーラシア	季刊
サイエンス	月刊
アジア女性交流史研究	季刊
生活と福祉	月刊
賃金と社会保障	半月刊
週刊社会保障	週刊
労働統計調査月報	月刊
月刊キブツ	月刊
金融ジャーナル	月刊
文研月報	月刊
愛護	月刊
歴史手帖	月刊
日仏法学	年刊
哲学誌	年刊
哲学論叢	年刊

日　誌（11月～1月）

11月1日　寺田禎男氏（パイロット万年筆・開発企画室）より科学史を中心にした図書の寄贈を受ける(分館)

7日　分館連絡会

10日　自動複写機(V・131×800型)を2階カウンター前の壁面に設置

16日　入学定員改訂に伴う私大設置審議会の実地審査行われる（分館）

17日　私大図書館協会「書誌学分科会」

18日　父兄会千葉県支部より20名の父兄見学のため来館

24日　茨城県父兄会分館見学のため来館

26日　杉山敏氏より蔵書75点 154冊の寄贈を受ける

27日　故戸谷喜久氏(大正14年の本学卒業生)蔵書263点480冊遺族の方より寄贈を受ける

28日～30日　私大協会主催図書館長並に主務担当者研修会（於名古屋，高橋課長外3名参加）

12月7日　私大図書館協会「逐刊分科会」

15日　私大図書館協会「書誌学分科会」

17日　〃　「分類分科会」

19日　文部省経済学商学視察委員による経済学部，経営学部の実地視察
分館連絡会

21日　白山連絡会

25日　雑誌架納入さる(分館)

26日～1月10日まで休館

1月4日～11日　「百人一首展」（サンケイ新聞社主催，於大阪三越）に本館より「源氏百人一首」他46点を出品

9日　仕事始め

11日　開館
内線電話増設(分館)

28日　学内紛争により学期末試験中止，学生の構内立入り禁止措置にともない，本館休館状態に入る。

2月7日　合同委員会

東洋大学図書館ニュース　KOΣMOΣ　Vol. 8, No. 3（通巻24号）1974年2月20日発行　編集：図書館ニュース編集委員会，発行人：大島建彦，発行所：東洋大学図書館　東京都文京区白山5丁目28番20号　Tel (945) 7314番